らが続いており、当社グル より鋳物など素形材事業 ノでは自動車分野の復調 「コロナ禍からの経済回 -22年3月期の業績に

)影響が少なく、主力の橋 事業はもともとコロナ禍 (注が好調だ。 土木建設機 装置向けのポンプ部品の 導体関連の需要増で、製 一復傾向にある。また、

。さらに、高速道路の補 分野の受注が安定してい

だけでなく、人件費、エネ 客に理解していただけるよ ない。グループ各社には顧 る水準をはるかに超えてお いる。素形材を中心に工場 たるまで全て値上がりして ルギー、輸送費、 資材にい るよう指示している。原料 う、丁寧に根気強く説明す の原価低減努力で吸収でき 販価に反映せざるを得

原料などコスト高の影響り、大きな課題だ。具体的に はタービンハウジング部材

の付帯コストの上昇分につ 「足元のコスト高は当社 り替えた。その他にも市場 待つのではなく、提案営業 る。ユーザーからの注文を 品にも使われると考えてい チャージャー向けから半導 ンハウジング部材はターボ 部品が多い。すでにタービ 造製品で自動車のエンジン イカストに関してはEV部 開拓が必要だが、アルミダ 体製造装置向けに市場を切 法やダイカスト法による鋳

のほか、ロストワックス製 解析など新たな事業の 柱に

機械が2割弱だ。素形材は 3割、土木建築が5割、産業 社、サービスが2社ある。事 機材が5社、産業機械が2 は素形材が6社、土木建築 **業別の売上比率は素形材が** でも手掛ける中身は各社で 会社数が多いが、同じ鋳造 ナジーを発揮している」 土木建築など他部門とのシ 違う。素形材部門内よりも、 素形材事業を中心に う努めている」 約1割が自動車分野であ いても、丁寧に説明するよ に果敢に取り組んでいきた 事業への影響は。 「当グループの売上高の -EV化の加速による プは電力消費量が大きく 電気炉を使う当グル 脱炭素に対する考え

設計

金を見込んでいる

- 川金グループの現況

当グループの事業会社

道路関連の受注が今年度)数量増の効果に加え、高 は増収増益。素形材事業 いま一歩だが、全体とし 振ゴムなど産業機械事業 も今年度は増えている。 に伴う免震装置の更新需

集中した特殊要因もあ

22年3月期は過去最高

検討課題だ。現状は鋳造の う。当グループとしてのC では不可能であり、業界全 取引の積極活用なども検討 に取り組んでいる。調達品 程の組み方など原単位低減 O2 排出削減目標の設定も 体での取り組みが必要だろ ゼロカーボン化は当社単体 に関する低炭素化や排出権 3場で省電力につながる工 や解析、アフターサービス 業はすべて製造業。もう一 ンジニアリング事業を考え など製造を手掛けない部門 ったノウハウを活かしたエ を構築したい。製造業で培 つの事業の柱として、設計

関する展望は。

事業構成の見直しに

当グループの主力3事

していきたい」 から1年が経過した。非 上場を選択した背景や効 - 昨年2月の上場廃止

对応状況と影響は。

パーの不適合製品への

免震・制震オイルダ

ている」

選択したことで従業員に変 取り組みたいと考えたこと 腰を据えて事業の再構築に り、短期的な収益ではなく、 がきているという認識があ プの事業構成を見直す時期 化がなかったことには安心 が大きな理由だ。非上場を Dた。 当社は技術者の採用 長期的な視点でグルー 採用面でも影響は まった顧客に対してはお詫 **度と同様のことが起きない** よう再発防止策を徹底し、 ない。当グループとして二 わり、今期の業績に影響は とができた。交換費用など に伴う特別損失の計上も終 5と説明に徹し、 ほぼ全対 信頼回復に努めている」 家物件で対応を完了するこ ご迷惑をおかけしてし 智矢

